

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の 世界遺産登録の推進について

4道県及び関係市町が一体となって取り組んできた「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、今年度の世界文化遺産の推薦候補に選定された。

厳しさを増すユネスコの登録審査を乗り越え、2020年の世界遺産登録を実現するため、関係自治体の一層の連携のもと、推薦書暫定版が本年9月末までに、正式版が翌年2月1日までに国からユネスコに提出されるよう推薦書の改訂作業を進める。

また、国際記念物遺跡会議の現地審査に向けて、万全の準備を整えていくとともに、国内外でのさらなる普及啓発、気運醸成に全力で取り組むことを宣言する。

平成30年8月31日

北海道知事	高橋	はるみ
青森県知事	三村	申吾
岩手県知事	達増	拓也
秋田県知事	佐竹	敬久

北の健康長寿圏の実現に向けて

平成29年9月に開催された第20回北海道・北東北知事サミットにおいて、「北海道・北東北3県の健康づくり～北の『健康長寿圏』づくりに向けて」が行動宣言として採択され、4道県は、健康寿命の延伸に向けて、食育等によるバランスのとれた健全な食生活の実現、運動習慣の定着、喫煙・受動喫煙防止対策、健康を守り推進する人材の育成、高齢者が生きがいを持ち安心して暮らせる環境づくりに取り組んできた。

また、平成30年7月に開催された全国知事会議においては、健康づくりや禁煙・受動喫煙防止対策等生活習慣病の発症・重症化予防、地域包括ケアシステムの構築に向けた予防・健康・医療・介護などの各分野間の連携強化等に効果を挙げている地方の先進・優良事例を相互に共有し、幅広く横展開することにより、人々の生活の質（QOL）の向上を図りつつ、社会保障制度の持続可能性を高め、社会に活力をもたらす「健康立国宣言」を採択した。

このような状況を踏まえ、4道県は、それぞれの地理的、気候的、文化的な類似性を背景とした課題や取組を相互に共有し、今後も一層の連携を図りながら、「北の健康長寿圏」の実現に向けて取り組むことを宣言する。

平成30年8月31日

北海道知事	高橋	はるみ
青森県知事	三村	申吾
岩手県知事	達増	拓也
秋田県知事	佐竹	敬久